

ひとのちから

CLOSE UP



荒尾写真クラブ

佐藤誠治さん

さとう・せいじ 昭和17年生まれ。八幡台2丁目在住。たから製網を退職後、シルバー人材センターに勤務。荒尾競馬で騎手の検量業務を務めた。趣味は写真とパソコン

市では荒尾の魅力的な風景を8つ集めた荒尾八景を選定しました。その選考委員会のメンバーの一人が荒尾写真クラブの佐藤誠治さんです。会長の村中猶由規さんをはじめ、荒尾写真クラブの皆さんには写真提供にも協力していただきました。

佐藤さんが初めてカメラに興味を持ったのは、小学校6年生のとき担任の先生だった森島廣二さん（荒尾市文化協会会長）から写真の撮影と現像を教わったことでした。16歳になって

自分のカメラを購入。「初めて買ったのはヤシカミニスター35というカメラです」と懐かしそうに佐藤さんは語ります。また26歳の写真コンクールで入選したことで、さらにカメラに没頭し、荒尾写真クラブに入会しました。

思い入れのある写真は昭和43年（1968）に佐世保市で起きた原子力航空母艦エンタープライズ入港阻止闘争での全学連と機動隊の衝突の写真。「寒い中、決定的瞬間をレンズに収め

ようと必死でした」と語る佐藤さん。他にも40年ほど前に荒尾海岸で撮影したウミガメの写真は、新聞各社から提供依頼が来るほど貴重なものでした。

写真の魅力は「シャッターを切った時の緊張と興奮です」と言う佐藤さん。まるで狙った獲物を捕らえるスナイパーのような気持ちになり、写真を見る側にもその緊張と興奮が伝わるのだそうです。

写真の魅力を知る佐藤さんは、写真が伝える力を持つことも知っています。「荒尾には普段何気ない風景と思っているものでも、とても魅力的なものがあります。例えば雲仙は荒尾海岸から見るのが一番美しいと思います」とにっこり。荒尾の魅力的な風景を市内外に伝えるために、荒尾八景への協力を惜しみませんでした。荒尾の魅力をカメラという道具で伝えることができる佐藤さんと、写真クラブの皆さんの感性は、今後も荒尾の魅力の発信に欠かせないものです。